

この寺は最澄の生誕の地と伝えられている。最澄は神護景雲元年（767）8月18日の生まれ。もともとは最澄の父親である三津首百枝の邸宅であり、後に寺院に造り替えられた。堂内には最澄の両親、三津首百枝と藤原藤子の像が祀られている。本尊は十一面観音で、円仁（794～864）の作と伝えられる。現在の本堂は文禄4年（1595）に詮舜（せんしゅん 1540－1600）によって再建され、さらに宝永7年（1710）に改築された。

毎年8月17日、18日は最澄の誕生を記念して、ご誕生会が行われている。境内には、最澄誕生に際して産湯を汲んだという言い伝えのある井戸がある。その近くには、最澄の胞衣を納めたところとされる「幸塚」（エナ塚）や、最澄の産湯の釜を埋めたところとされる「石櫃」などがある。